

第4回在宅医療・介護連携推進事業会議 議事録

日 時 平成30年7月26日（木）午後1時30分より

会 場 江戸川区医師会館 2階 理事会室

出席者 在宅医療・介護連携推進事業会議 委員長 小川勝

（江戸川区介護保健施設連絡会）

江戸川区歯科医師会 広瀬芳之

江戸川区薬剤師会 大林武史

東京都医療社会事業協会 藤井かおる

江戸川区ケアマネジャー協会 内藤修、三田友和

東京都看護協会 佐々木誠子

江戸川区訪問介護事業連絡会 江面秀樹

江戸川区地域密着型サービス事業者連絡会 梅澤宗一郎

江戸川区医師会 津田隆

地域保健課長 深井園子、健康推進課長 塚田久恵

介護保険課長 坂本崇一郎、事業者調整係長 本城智也、同主査大島秀雄

訪問看護ステーション杉浦、医師会事務局：柴、阿部、愛木記

決定事項

- ・在宅医療介護研修の各回の企画（講師の選定や内容）を確認
- ・区民向け講演会の前半は基調講演、後半はパネルディスカッションとし、名称を「区民向けシンポジウム」に統一
- ・「区民向け シンポジウム」のテーマは「誰もが安心して住み続けられる地域づくりを目指して」とする
 - （1）基調講演（40分）「地域包括ケアシステムの確立に向けて～現状と課題など～」
 - （2）パネルディスカッション（40分）「自宅で暮らし続けるための医療や介護サービスと地域のあり方とは」
- ・パネルディスカッションの事例討論では、各団体の取組みと共に参加者代表からも発言して頂く
- ・各団体からの参加者は「平成30年度区民向けシンポジウム想定人員数」に東京都看護協会を加えたものとし、一般参加者については江戸川区に一任する。
- ・配布資料は事前に関係団体より集約し封筒に入れて参加者席に置く

- ・「区民向けシンポジウム」の案内のチラシは区で作成し、各団体向けにも提供
- ・医師会のHPにて「在宅医療・包括ケア」のページで各団体の情報、Q&A、職種紹介を掲載。9月20日に最終確認を行ない、委員会に提出予定。それに伴う情報の提供を各団体にお願ひする。

議 題

1. 平成30年度多職種連携及び在宅医療介護連携研修一覧（資料1.）

小川議長より挨拶後、ケアマネ協会の内藤氏から研修について説明。6月27日、7月12日の2回の研修の終了と、参加人数などが報告された。

（内藤）8月30日の研修は「社会資源の活用」なごみの家の役割、というテーマでなごみの家の長島桑川から熊谷氏にこれから行なわれる地域共生社会の現状と推進、今年度新規で立ち上がる北小岩から森氏に講師をお願いしています。9月21日の研修は「倫理及び法令遵守」介護職として守るべき法令の理解というテーマで、現在介護保険など厳しい状況になっているのを踏まえまして、様々な法律に詳しい介護福祉ジャーナリストの田中元氏をお願いしています。この方は月間ケアマネの元編集長で、今まで研修にも何度もお願いしており、アンケートでもリピーターを希望される方が多かったので決めました。10月17日「権利擁護及び虐待」区民の権利擁護と安心生活センターの役割というテーマで安心生活センターの社会福祉協議会の吉田悦子さんをお願いしております。

2. 平成30年度 第2回多職種連携研修 報告書（資料2.）

（内藤）続いて第2回多職種連携研修の報告です。上智大学の太田晃氏が講師で地域共生社会に向けて「介護保険と障害保健」に係る制度上の違いや実際の業務での留意点などをお話いただきました。今回はほぼ満員に近い数の参加があり、ケアマネが一番多く、サービス提供責任者やその他訪問介護やデイサービスの職員の方などが参加されました。これから行なわれる共生型サービスの提供にあたって介護と障害の連携の必要性を感じた、今までわかりにくかった障害者制度について学べた、という意見が多くありました。それ以外では専門性を極める重要性や、多職種連携が大事だということを改めて認識できた、介護保険と障害サービスは似ているようで違うので、ケアマネにも知識が必要だという意見もありました。その他今後「多職種連携研修」で受けたいテーマなどのアンケートでは、発達障害

の方やMSWの方による入退院支援のモデル紹介等を教えて欲しいなどの意見があり、今後の課題になっていくと考えております。

(小川議長) ケアマネ事業所で、実際に障害と介護の両方を行っているところ、障害者の方の場合は相談支援専門員が担当していると思いますが、プランによりヘルパー事業者など対応や難しさなどは違ってきますか？江面さんの所はありますか？

(江面) はい、まさに障害と介護を行なっています。そしてサービス内容などは全然違いますし、疾病などの特性があるのでそれを理解しなくてははいけない。高齢者の疾病の知識しかないヘルパーさんがOJT（現場で実務をしながら習得する）に行ってもなぜそうなるのかわからないので、しっかりと研修でスキルをあげて現場に行ってもらっています。

(小川議長) 障害の分野での研修などは行なっているのですか？

(江面) 相談員を呼んだり自社に所属している方に困難なケースや疾病により様々な行動特性があることなど、研修で取り入れて行なっています。

(小川議長) 障害者の中でも介護サービスがあると思うのですが、24時間のサービスを希望される方もいますし、障害に関しての知識もサービスもこれからの共生社会では必要になっていくものだと思います。他に何かご意見ありますか？

(内藤) 障害の方も介護保険に考え方が近づいてきているようで、障害特性があるにも係わらず障害を介護に持って来ていることによるトラブルが上がってきています。

(小川議長) 制度的にはまだ棲み分けはされているものの、今後その流れは避けられない可能性があります。訪問看護などはすでに対応をしていますし、これから様々な問題が出てくると思います。難しい問題だと思います。この二回目の研修は実際知識としての研修でしたか？それとも業務に活かせる内容でしたか？

(内藤) 知識としての内容だと思います。共生社会というものがまだまだこれからで、検討している事業所などはあるものの、介護保険で障害のお客様を受けことや、法律が変わってから実際やりましたというところは中々ない。身体介護で50代の方で障害のデイサービスに行くよりは明らかに、短時間サービスと言われる筋トレマシーンなどがある所を介護保険で受けたほうが良いと思うケースなどでも、窓口がなくどちらのサービスも受けることができず筋力がどんどん低下してしまうなど、垣根を越えたサービスをしなければならないという意識づけにはなったと思います。実際すぐに活用できるかという点と難しい。

現在江戸川区では、相談支援専門員は120～130名ほどいますが、約50人位は

ケアマネと相談支援専門員の両方の資格を持っています。言葉は悪いのですが、どうしても報酬単価が安いので、江戸川区としてもなかなか事業所が増えないなどの懸念があります。

(小川議長) こちらも難しい問題ですね、他に何か。

(坂本) 今後の「多職種連携研修」で受きたいテーマのアンケート内容で、まさにこれから11月以降にそれぞれの団体が行なう予定の研修の内容が書かれていて、現場の意見としてMSWによる入退院支援や薬と人体に与える影響についてなど、これからの研修に取り入れていただければと思います。

(小川議長) 漠然としたところはあるかと思いますが、ニーズとして受け止めて研修に盛り込んでいってもらいたいと思います。

(江面) 11月からの研修で、服薬指導・入退院支援・在宅療養の現場からというところで、訪問介護から見る各テーマの課題をピックアップしたものをまとめてきました。

(藤井) ヘルパーさんやケアマネさんからの目線というのがとても大事で、専門用語がわかりにくい、いきなり明日退院などと言われるなどよく言われていることです。その辺りを踏まえて、病院の機能とは何なのか、退院に至る前の入院した時の情報などがわかると解決できることもあるので、背景を伝えていけたらと思います。また「退院してからどのようなことに注意して在宅生活を送るのが好ましいのかを教えてくれると在宅でのプランを考えやすい」などの意見があります。そのための退院支援について対策を考えていきたいと思います。

(大林) ケアマネ協会配布資料の「訪問介護員から見る各テーマの課題」欄の服薬指導に沢山書かれている項目を見ると、(介護職の皆様は薬剤師の業務が)伝わっていないことを痛感します。薬剤師も処方箋を捌くのが手一杯で、在宅薬剤師として利用者宅に行きたいけれども行けていない、というところがありますが、それでも複数の薬局が徐々に在宅医療を行っています。ただここに書かれている在宅医療における薬剤師、在宅に出ていない薬局でも地域に何か貢献できないかなど、例えば一包化調剤を薬局で実施してもそのあとの管理がなされていないとか、薬が余ったり薬の量が多すぎて困っていてもどこにも相談出来ない、もちろんお医者さんに相談することもできない場合でも、薬局に相談頂ければ医療機関と連携しながら対策をしようと検討しています。ぜひこういった質問に答えられるようにしていきたい。近くサービス提供責任者やヘルパーさんを対象にお話しするので、そこで色々な反響を頂ければそれは12月までに対策を講じますのでよろしくお

願います。

(小川議長) この資料の中ではサービス提供責任者やヘルパーなどが医療専門用語がわからない、と言っていますが、ケアマネさんもそのように感じているのでしょうか

(内藤) ケアマネのレベルによると思います。ムンテラが分かる人もいれば、分からない人もいます。

(小川議長) 結局勉強するかしないか、ですよね。勉強する人は本を買ってでも、図書館に行ってもするし、介護に関する医療用語の本もありますので、他者にまかせず自分で学習して行くことが必要だと思います。

(内藤) この委託研修は無料なので参加率も大変良いのですが、逆に意識の低い方は参加されないのが勿体無いところではあります。主任ケアマネの取得や、その更新の対象になる研修なので、より一層参加意識が上がることを期待しています。

(小川議長) 今はインターネットを使って自分で調べることも出来ますし、薬局の電話相談もありますよね。

(大林) 薬のことに限らず、薬剤師会の「お薬相談」のフリーダイヤルがあります。

(小川議長) そういう情報を集める企業努力も必要だと思います。あとは個々のコミュニケーションと連携ですね。色々な医者がありますし、難しいところはあると思うのですが、そういったアドバイスを盛り込んで頂けたら良いです。

(小川議長) 杉浦所長、研修の件ですが、在宅医療と訪問看護ステーションと訪問ドクターの話の半々に分けて行なって欲しいと思います。今、介護と医療の架け橋としての訪問看護は大変重要なもので、色々なことがギクシャクしている中で多分現場では訪問看護師がまとめてくれているという所があります。その辺を話して貰えばと思います。訪問ドクターについては安保賢一先生にお願いしました。

(杉浦) 了解しました。

(小川議長) 講師の選定などに関して意見はありますか？11月は菊谷先生となっています。特に問題などはありませんか？

(広瀬) 菊谷先生と調整中ですが、まずオーラルフレイルとその対応について、口腔ケアの重要性、介護予防・重症化予防との関係について、ケアプランに口腔ケアを落とし込むために利用者から訴えを引き出す方法、寝たきりの方の口腔内をヘルパーさんが安全に清掃する方法、摂食嚥下障害に対応するための多職種チーム連携を築くにはどうするか、ここら辺のことを盛り込んでお話をお願いしています。全部で2時間、菊谷先生のご講演の本体は1時間20分から30分、江戸川区での

訪問口腔ケアの実例の紹介を10分、質疑応答で10分くらいをしています。

(小川議長) ありがとうございます。歯科医師会の次は薬剤師会ですね。

(大林) まだ日程に関しては決まっていません。講師は私か会長か、と思っています。他に江戸川区で面白そうなトピックなどがあればと思います。

(小川議長) では決まりましたら、ご報告をお願いします。次は医療ソーシャルワーカーですね。

(藤井) 先日会合があったのでそこで話をしまして、色々な意見が出ました。大筋として入院退院の流れと機能の説明は伝えたい、東京都で出している「急にケガをしたら」という冊子に、大腿骨を骨折したおばあちゃんが、救急車で運ばれて、医師に2週間後に退院と告げられ、「そのあとのことを考えてください」と言われる事例があります。それが現実なので、それを基盤にして、外来からの入院前の前方の連携、救急車でどこかに行くというときに前方連携を看護師さんがやっているところもありますし、入院をして手術をして退院となった時にはまた後方連携という形で退院先の地域に繋ぐという、そういった機能など伝えたいことが沢山ある。リーフレットやチャートなど、江戸川区の実際の病院の情報など、どんな病院のどんな機能があって、という所も配りたい。

前半では、役立つ情報の提供、情報提供の窓口が実際にはよくわからないなどケアマネさんからの問い合わせがありますが、病院によって違うことがあること、江戸川区の医療機関の中で今回新しく入院時情報提供を行った時にケアマネさんから病院に「入院時情報連携加算」が付くことになったけれど、どこに送っていかかわからないといった質問にも答えられたら。後半では多職種連携での困難事例で、精神疾患をもつ方や成年後見を使う場合や、民生委員から社協の方からケアマネさん、近所の方まで交えた事例をお話したいと思います。知識だけで一方的に2時間は辛いかなと思うので、講師も二人くらいにして工夫をしたいと思っています。現在意見がたくさん出ていますが、欲張り過ぎずまとめていくつもりです。ご意見があったらぜひ。

(小川議長) ありがとうございます。そして次が在宅療養、最後が認知症ですね。

それではまた次回、進捗状況を教えてください。

では続きまして「区民向け講演会」について検討します。

3. 平成30年度在宅医療介護連携推進事業「区民向けシンポジウム」について

(小川議長) まず一点目としまして、今まで「区民向け講演会」という名前で進めてきましたが、シンポジウムを行なうにあたり名前を統一し「区民向けシンポジウム」とさせていただきます。後半の関係団体が集まって討論することはパネルディスカッションとなります。全体のテーマは「誰もが安心して住み続けられる地域づくりをめざして」となり、前半の基調講演は「地域包括ケアシステムの確立に向けて～現状と課題など～」で私が講演致します。後半のパネルディスカッションのテーマが「自宅で暮らし続けるための医療や介護サービスと地域のあり方とは」となります。

パネルディスカッションは、区民の立場でわかりやすい内容にしようと思いません。基調講演では江戸川区が今どういう状況になっていて、どのような課題があり、どう対処していくのか、情報共有と共に「熟年しあわせ計画」でのデータやその他のデータを元に課題や将来に向けての内容にする予定です。現場の問題解決までいけるかわかりませんが、役に立つような話があれば。今回の講演の対象となるのは地域のリーダー的な役割を担っている方たちとなります。

プログラムに関して基調講演は30分の予定でしたが、アンケートの説明を加えさせていただきます、40分とさせていただきます。アンケートは私が作成し、前回と同じような15問くらいで内容を少し変えようと思いません。国では6000人の20歳以上を対象に人生の最終段階における医療に関する意識調査のアンケートを行っており、人生の最終段階を考える時期に入ってきたのだと思いません。そういった内容もアンケートに盛り込みたいと思いません。区民の皆さんにアンケートなどでそういう話が出たよ、というような皆で話し合うきっかけや意識づくりになればと思いません。

プログラムに関しては午後2時から始まり区長と医師会会長に10分間お話をいただき、基調講演を40分行います。休憩に入る前に10分間熟年相談室による討論事例について概要や課題点を説明します。3時10分から40分間パネルディスカッションを行ないます。パネリストの紹介に10分、事例に関する討論、各団体からの取組み、参加者席から歯科医師会・薬剤師会など参加者代表からのお話も聞きます。きっちりとしたシナリオではなく、様々な方が参加して当事者から話してもらえるようにしたいと思いません。3時50分には江戸川区介護保険事業計画等検討改定委員会の浅岡委員長による閉会の言葉をいただき終了となります。参加者の総数は200名ですが、基本は平成27年度の参加者想定人数を参

考にさせていただきます。

(坂本) ご希望の人数がわかれば、後程お知らせいただければ調整します。

(小川議長) 当日来ていただいた方にどんどん入っていただいて、出席は取らない形で行ないます。一般の方に関しては区に集めてもらいます。平成 27 年度の資料に書かれていませんが、看護協会江戸川区支部で 3 名増やしていただけるようお願いいたします。その他、区民向けシンポジウムに関して何か質問等ありますか。

(藤井) 前回、職種別の資料で「A 4 サイズ両面 2 枚」というのは、区民向けの情報提供に使うものですか？

(小川議長) 「A 4 サイズ両面 2 枚」というのは講演で使うスライドでの話でして、区民向けの情報は各団体のものを封筒に入れる予定です。

今回会場の関係で、少し段差があり少々見えにくい部分もあるかと思えます。

一応前のほうに関係者席を 10 席ほど設ける予定です。その他、こうした方がいいなどあれば、ご意見をお願いします。

(坂本) 一般区民の参加者は広報でお知らせしますが、それとは別に内容とどなたが講演されるかなどを載せたものを区の方で作らせていただきます。次の回が 8 月お休みで 9 月になってしまうとそれでは遅いので、町内でお声かけするような内容のものをこちらで作成いたします。

(小川議長) わかりました、各団体で名前を変えて配布できるようそれぞれにお願いします。

(広瀬) 確認ですが、対象とする区民や一般参加者 40 名はどのような方ですか。

(坂本) この 40 名の方は広報で募集する形になります。一般以外の参加者は区民の中でも地域支援ネットワーク会議というところの会議体に参加していただいている方たちになります。一般の募集であっても民生委員だったり、人生大学の学生さんであったり、施設にボランティアで入る方だったり、そういった方が中心で手をあげることになるかなと思います。

(広瀬) 所属が書いてある方は一般以外の方になるのですね、この一般の 40 名がどういった方が来るかにより、今後の展開が変わっていくと思うので意識の高い方が参加されるといいなと思います。

(小川議長) 次回はまた区民向けシンポジウムに関しての進捗など、お話します。研修でご自身の担当がある方はお声かけなどお願いします。

あと事務局からお願いします。

その他1. 在宅医療・包括ケアの医師会ホームページについて

(事務局・阿部) 配布してある2色刷りの資料をご覧ください。在宅医療・包括ケアの医師会のHPになります。昨年12月にはじめてアップしたもので、MCSの登録だけだったのですが、この「在宅医療・介護連携推進事業会議」の多職種の先生方が集まっていたので、進捗を含めて在宅医療や地域包括ケアなどを充実させていきたいと思っています。

具体的なお願いとしまして、在宅医療のページにて各職種のQ&Aと共に団体名・問い合わせ可能な電話番号・専用のHPアドレスの提供をお願いいたします。各団体の職種の紹介ページも作成予定です。前回お配りした東京都医師会のパンフレットの各職種のページを参考にいただき、特に変更がなければそのまま使用します。HP、Web Q&Aページ要請をMCSにてアップしましたので、お目を通していただきデータにて提出をお願いします。次の回にて最終合意をいただき、アップできたらと思います。お盆前後に一度進捗を確認させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(小川議長) ここに載っているものはダミーですので、Q&Aもこのまま使用しなくて結構です。かかりつけ薬剤師とはなんですか?とか、休日に何かあったら?のような各団体でよくある質問内容をこれに考えて書いていただければと思います。答えに沢山書くのではなく、「詳しくはこちらへ」とバナーで各団体のHPに飛ぶような形に。医療系・介護系で色分けするとわかりやすいかもですね。まとめて見やすいように質問だけ表示してクリックすると答えが表示されるようにするとコンパクトになりますよね。中項目大項目を作るのも見やすいですね。せっかくなので皆さん活用して下さい。

(広瀬) どのくらいで運用できるようになる予定ですか?

(阿部) ダミー表示されている部分が埋まれば、すぐにアップできる状態です。次回9月20日の委員会に提出させて頂く予定です。

(藤井) では締め切りの最終は次回の9月20日ですか?

(阿部) はい、その予定です。

(小川議長) 今回はここに参加している団体の皆さんのみでご了承下さい。

(梅澤) 地域密着の方がサービスとしてはグループホームとか、小規模多機能とかデイサービスなど役割がちょっとずつ違う団体になっていまして、イメージが難しいのですが。

(阿部) 地域密着に関しては難しい部分もありますが、他の地域でのHPが参考になりそうですので、そちらをご案内させていただきます。

(小川議長) あくまでも質問は区民目線をお願いします。あまり宣伝とかではなく、質問に端的に答えて、その後はもっと知りたい方はバナーで飛んでもらう、という形でもよろしくをお願いします。

その他2. 東京都看護協会東部地区支部からのお知らせ

(佐々木) 江戸川区東部地区支部からのご連絡なのですが、10月24日(水)チーム江戸川区の情報交換会が開催されます。毎年ここ三年間くらい行なっています。テーマは「在宅医療を支えるための医療と介護の連携」ということで、今回はこちらに参加されている内藤さんにケアマネの立場でお願いをしています。看護多機能型の居宅、介護事業所のトータルケアゆいの方で、看護多機能というものが地域でどのような機能をしているのかというのが、急性期病院の看護にしても、病院の看護師さんたちに認識されていない部分があるので、ここを皆さんに伝達することと、シンポジストを3名くらい設定をして会を開くことにしています。もう一つ、第7医療圏の情報交換会が11月27日に隅田区、江東区、江戸川区とが合同で行ないます。こちらの内容に関しては現在検討中となっています。どちらも80名くらいの参加で事業所・看護師・医療と介護に関する人たちにこれからご案内状を出す予定となっていますので情報提供ということでよろしくお願い致します。

(小川議長) もし紙ベースでのお知らせなどありましたら、次回よろしくをお願いします。

(佐々木) 次回ご案内させていただきます。時間は18:30から20:00です。

(阿部) 次回の開催は医師会館4階第3会議室になりますので、よろしくをお願いします。

◎次回開催は、平成30年9月20日(木)午後1時30分開催予定

★場所：医師会館4階「第3会議室」になります。